

# MAKE IN INDIA

メイク・イン・インディア

自動車部品



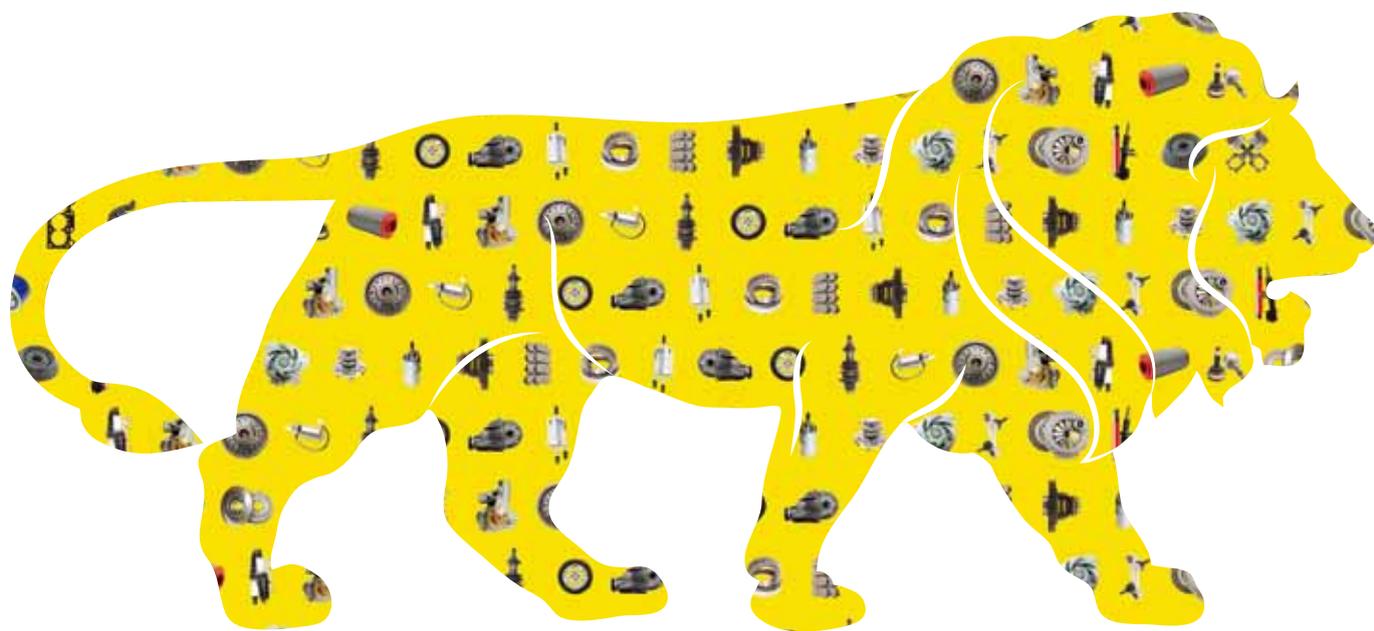
**農業から自動車まで  
ハードウェアからソフトウェアまで  
衛星から潜水艦まで  
テレビから映画まで  
橋からバイオテクノロジーまで  
ペーパークリップから発電所まで  
道路から都市まで  
友情からパートナーシップまで  
利益から進歩まで  
あなたが望むものはすべて、  
インドで作ってください。**



सत्यमेव जयते

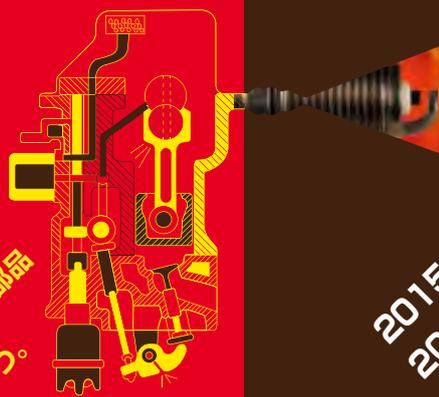
太古の昔からインドの国章として  
用いられているライオンは、  
力、勇気、粘り強さと智恵という、  
古代から今日まで受け継がれている  
インド的価値観を表しています。

「アショカ・チャクラ」は  
インドの国章の中心的要素であり、  
また国旗の中心にもあしらわれています。  
この輪が象徴する平和的進歩とダイナミズムは、  
インドの啓示に満ちた過去から受け継がれ、  
インドを躍動する将来に向かわせる  
力となっています。



# トヨタが世界の 鉄火場

インドは世界有数の自動車部品  
生産国にして、  
五大鉄鋼生産国のひとつ。



2015年までには世界第二位の鉄鋼生産国になる見込み。  
2012年度の鉄鋼総取引高は397億ドル。  
2008—13年に、輸出が17パーセント成長した。  
2012年度の輸出額は97億ドル。

## 新たな優遇措置

「メイク・イン・インド」プログラムには、投資とイノベーションの促進、知的財産保護、最高レベルの製造インフラのための主要な新規優遇措置が含まれています。

### ① 新たなプロセス

- ・ビジネスのしやすい環境づくりを重視
- ・免許制度と規制の緩和

### ② 新たなインフラ

- ・産業大動脈
- ・産業クラスター
- ・スマートシティ
- ・イノベーション促進
- ・能力開発

### ③ 新たな分野

- ・防衛、建設、鉄道などの重要産業におけるFDIの開放

### ④ 新たな姿勢

- ・初めてインドに投資する投資者を到着時か案内し、支援する専門チーム
- ・全分野における、特定企業にターゲットを絞った働きかけ

# 事実と数字

## 投資をするべき理由

- 自動車部品の世界的調達拠点として台頭している。
- ASEAN 諸国、日本、韓国、ヨーロッパなどの主要自動車市場に近接している。
- 価格競争力。
- 世界第四位の鉄鋼生産国。
- 鉄鋼生産のコストが競合他国よりかなり低い。
- 2015年までに世界第二位の鉄鋼生産国になる見込み。
- Tier 1の自動車部品サプライヤー数社がインド子会社からの調達を増やす計画を発表した。

## 成長の牽引力

- 労働人口の増加と拡大を続ける中産階級は、今後も需要の主な牽引力であり続けると期待されている。
- 熟練・半熟練労働者からなる豊富な人材と強力な教育制度。
- 分析、シミュレーション、エンジニアリング・アニメーションなどを伴う研究開発施設と試験所への投資が拡大している。
- 自動車分野における物品税軽減は、自動車部品への需要に弾みをつける。
- 世界企業が発注するインドにおけるOEM生産の成長と、OEMの現地化は、インドを世界企業に好まれるデザイン・製造拠点に変貌させつつある。

## 統計

- 2012年度の売上高は、397億ドル。
- 2020年度までに売上高が1150億ドルに達する見込み。
- 2016年までに、世界の車両販売の5パーセント以上を占める、世界第3位の自動車部品市場になると予測されている。
- 2020年までに、中国、米国、日本に次ぐ世界第4位の自動車生産国になると期待されている。
- 2008—13年に、自動車部品輸出は年間平均17パーセント成長した。

## 投資機会

### エンジン・エンジン部品：

- ターボチャージャーやコモンレール・システムなどの新たな技術的变化。
- 業務委託が短期的・中期的に拡大する見込み。

### トランスミッション・ステアリング部品：

- 交通量の増大に伴い、クラッチやその他のサブセグメント製品の市場における取替部品の占有率が上昇する見込み。
- グローバル企業の参入がギアやクラッチなどのサブセグメント製品市場における競争を激化させると予測されている。

### サスペンション・ブレーキ部品：

- 自動車部品製造業者は、輸出に加え、取替部品とOEMセグメント製品の多様な顧客層を持っているため、このセグメントにおいて、取替重要が大きく伸びると予測されている。
- グローバル企業の参入により、ショックアブソーバーなどのサブセグメント製品における競争が激化する見込み。

### 装備品：

- 取替部品市場に参入している企業は、これから流通網、ブランドイメージ、製品ポートフォリオと価格政策に力を傾注すると見られる。

### 金属部品：

- 製造業者は、二輪車セグメントにおける板金部品、ボディ・シャーシ、ファンベルト、圧力ダイカスト、油圧式・空気圧式計器などの製品に対する需要の拡大から利益を得られると期待されている。
- 板金部品サブセグメントにおける主要企業はインドにおける顧客層を広げつつある。

### 国家電気自動車計画 (National Mission for Electric Mobility, NMEM) 2020:

- 2013年、インド政府は、電気自動車(ハイブリッド車を含む)の利用と製造を促進するための「国家電気自動車計画 (NMEM) 2020」を立ち上げた。
- 都市部の短距離通勤(片道平均50km-100km)に適した、インドの夏とモンスーンにも耐え得る頑丈で低価格のハイブリッド車・電気自動車(xEV)の需要が大幅に拡大すると予測されている。また、2020年までにこれらの車両の売上は600-700万台に達すると予測されている。

## FDI 政策

- 自動車部分野においては、適用される規制と法律に準拠していることを条件に、100パーセントのFDIが自動承認ルートにおいて許可されている。



## 資金援助

### 2014年度連邦予算における主要条項：

→トラクター製造業者の一つないしは複数の工場から同企業の他工場に送られ、トラクター製造に利用される部品にかかる物品税が免除される。

以下のうち一つの控除を要求することができる。

→2013年4月1日から2015年3月31日までにインドで入手・設置した工場と機械に10億ルピー以上の投資を行う製造業者に関しては、同期間中の新規の工場と機械への投資累積額が10億ルピーを超える場合にのみ、15パーセントの投資控除（割増償却）が認められる。

→製造業者にさらなる推進力を提供するため、2億5千万ルピーを超える投資を行う製造業者には、新規の工場と機械（前年度に入手・設置したもの。2017年3月31日まで）にかかる費用に対し、15パーセントの割増償却が認められる。

### 企業・民間出資による研究に対する研究開発優遇措置：

→所得税法（Income tax Act）の第35節（2AA）に基づき、加重税額控除が認められている。

→国立研究所、大学や技術教育機関、特定の分野における特定の人物に対して、指定当局に許可されたプログラム内の科学的研究にかかわる費用が支払われた場合、その額に対し、200パーセントの加重税額控除が認められる。

### 企業内研究開発センターを有する製造業者：

→所得税法（Income Tax Act）第35節（2AB）に基づき、科学的研究開発のための資本支出、収益支出に関しては、200パーセントの加重税額控除が認められる。土地や建物に関する支出に関しては、控除が適用されない。

### 州政府による優遇措置：

→上記以外にも、インドの各州は産業プロジェクトのためにさらなる優遇措置を提供している。

→優遇措置は、土地取得費用の払い戻し、土地の売却やリースに関連する印紙税の免除や緩和、電気税優遇措置、優遇的貸出利率、投資補助金／税優遇策、後進地域補助金、超大型プロジェクト向け特別優遇策パッケージなどの分野にわたる。

### 輸出優遇措置：

→輸出促進資本財スキーム（Export Promotion Capital Goods Scheme, EPCG）

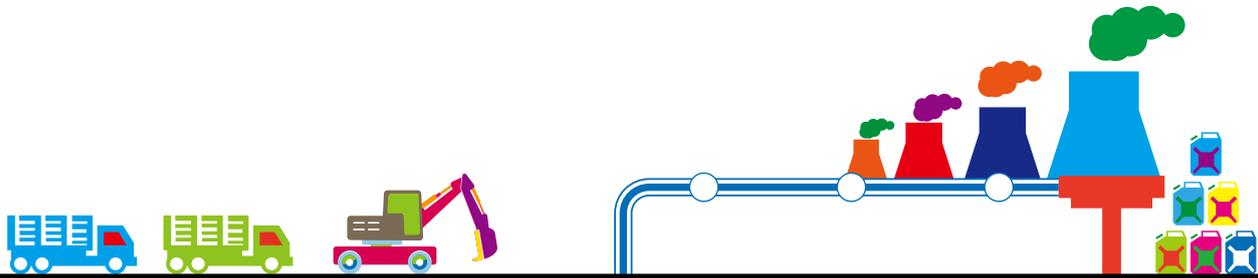
→関税減免スキーム（Duty Remission Scheme）

→重点品目スキーム（Focus Product Scheme）、特別重点品目スキーム（Special Focus Product Scheme）、重点市場スキーム（Focus Market Scheme）

### 特定地域優遇措置：

→経済特区（SEZ）、国家投資製造地帯（NIMZ）内の事業体に関してはSEZ法、NIMZ法に規定された優遇措置、および北東地方、ジャムム・カシミール州、ヒマチャル・プラデッシュ州、ウットラカンド州などの特別地域内のプロジェクト設立に関する優遇措置が設けられている。





## 産業政策

### 自動車政策 2002 (Auto Policy 2002)

- 自動車部品製造産業に関しては、100パーセントのFDIが自動車承認ルートで許可されている。
- この分野における製造、輸入に関しては、免許と認可が免除される。

### 自動車産業育成計画 (Automotive Mission Plan) 2006-16:

- 中小企業を対象とした技術近代化ファンドの設立。
- 自動車訓練学校、自動車デザインセンター、自動車産業団地、自動車部品を対象とした仮想経済特区 (virtual SEZ) の設立。
- 低コスト製造と製品開発ソリューションの提供を重視している。

### 自動車試験・研究開発インフラ整備プロジェクト (National Automotive Testing and R&D Infrastructure Project, NATRiP)

- このプロジェクトは、インドの自動車産業が世界的性能基準を採用し、実現する能力を獲得することを目指し、3億8850万ドルを投じて立ち上げられた。

### 重工業国営企業庁 (Department of Heavy Industries and Public Enterprises) :

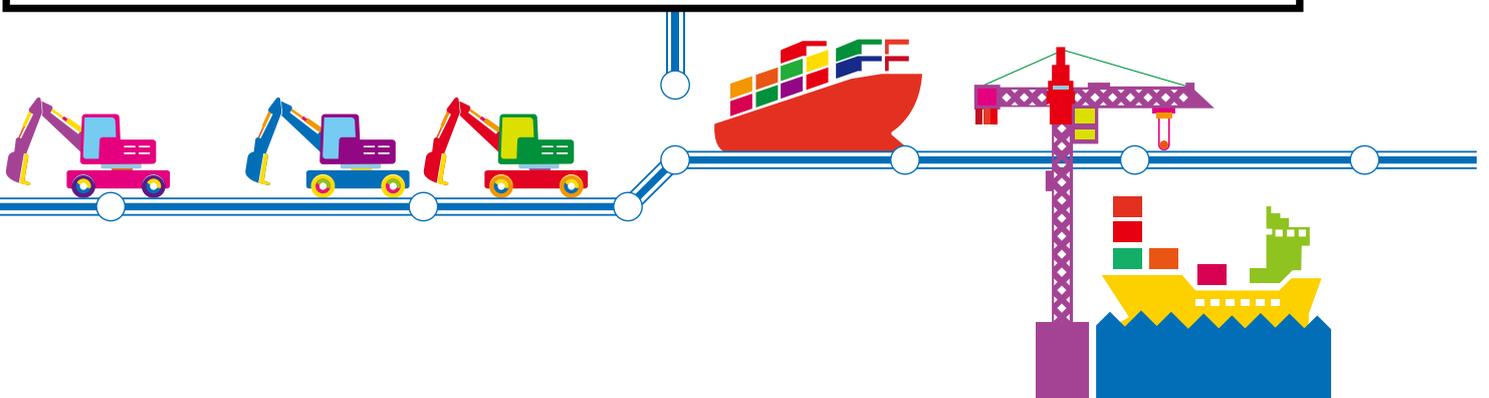
- 貸付利子補給金と新規の工場・機械への投資のための補助金を提供する、2億ドルの自動車部品産業近代化基金。
- 慰安税免除補充証明書 (Cutty Free Replenishment Certificate) に関しては、自動車部品を扱う中間業者に輸出優遇措置が取られている。

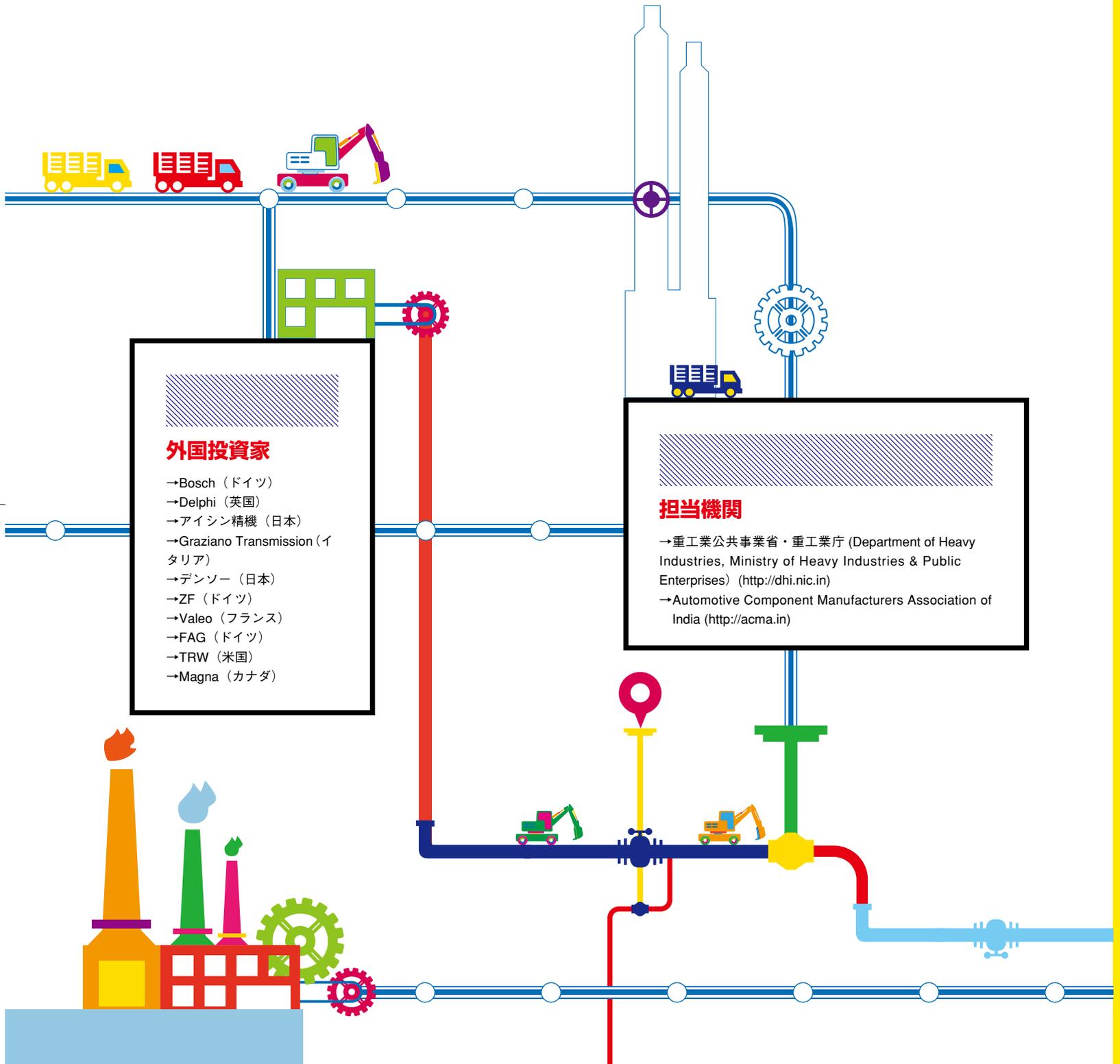
### 国家電気自動車計画 (National Mission for Electric Mobility, NMEM) 2020:

- 「国家電気自動車計画 (NMEM) 2020」は、電気自動車 (ハイブリッド車を含む) の利用とインドにおける製造を促進するために、2013年1月9日に立ち上げられた。消費者の望む性能と価格を実現する、信頼性の高い、低価格の、エネルギー効率のよいハイブリッド車・電気自動車 (xEV) を奨励する。政府・産業間の連携を通じて、国内の製造能力、必要なインフラ、消費者意識と技術を推進することで、2020年までに600-700万台のxEVを売上げインドをxEV二輪車・四輪車の市場のリーダーにすることを目指している。
- 都市部での安全な短距離通勤 (片道平均50-100km) に適した、またインドの灼熱の気候と年に3-4カ月続くモンスーンの大雨に耐え得る、頑丈で低価格の電気自動車への需要が拡大すると予測されている。

### 電気自動車パイロット・プロジェクト (Pilot Projects of Electric Vehicle):

- 重工業庁はクリーンで環境に優しい交通手段の利点を人々に提示し、教育するという二つの目的を持つ、電気自動車のパイロット・プロジェクトをデリーにおいて立ち上げる過程にあり、今後他の都市にもこれを拡大する。
- 重工業庁は、州政府や指定機関がこれらの車両を入手し、使用するのにかかる費用を支援する助成金を出す財政援助 (Viability Gap Funding) を提供する。第1期として、電気自動車の普及を通じたデリー地下鉄 (Delhi Metro) 沿線駅への接続性向上を目指すパイロット・プロジェクトが許可された。





**外国投資家**

- Bosch (ドイツ)
- Delphi (英国)
- アイシン精機 (日本)
- Graziano Transmission (イタリア)
- デンソー (日本)
- ZF (ドイツ)
- Valeo (フランス)
- FAG (ドイツ)
- TRW (米国)
- Magna (カナダ)

**担当機関**

- 重工業公共事業省・重工業庁 (Department of Heavy Industries, Ministry of Heavy Industries & Public Enterprises) (<http://dhi.nic.in>)
- Automotive Component Manufacturers Association of India (<http://acma.in>)



सत्यमेव जयते

## インド政府

商工省 産業政策推進庁 投資促進室  
Department of Industrial Policy & Promotion  
Ministry of Commerce & Industry  
Investor Facilitation Cell  
Tel: +91-11-23487411

---

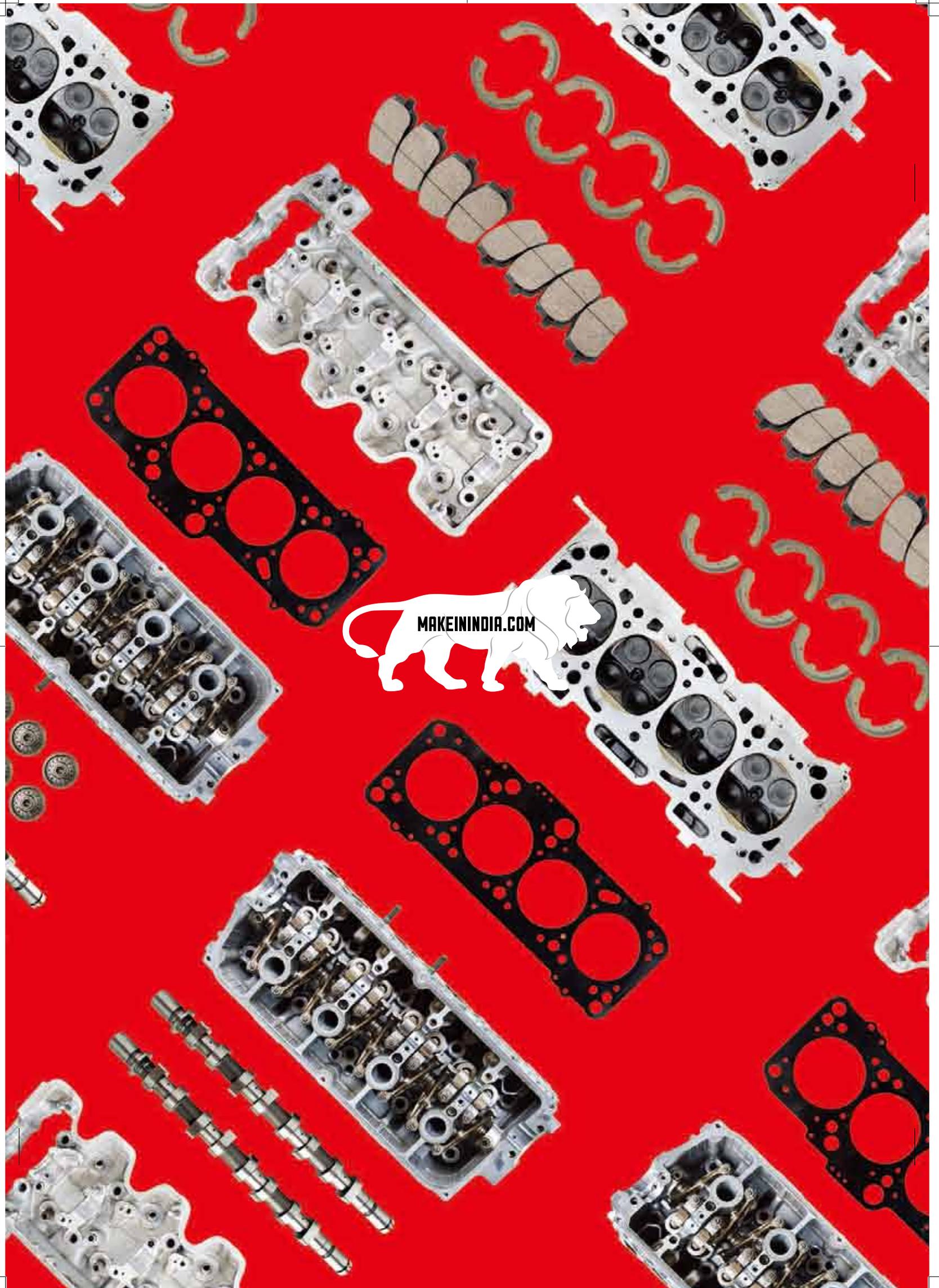
お問い合わせ

### インド大使館

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-2-11  
電話：03-3262-2391 to 97  
FAX：03-3234-4866  
Email：fspic@indembassy-tokyo.gov.in

### インド総領事館

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1 丁目 9-26 船場 I.S. ビル 10 階  
電話：06-6261-7299  
FAX：06-6261-7201  
Email：cgindia@gol.com



MAKEININDIA.COM